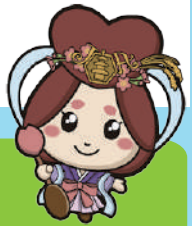




2021年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.4 ハウス管理編

〔撮影日：2021年4月21日〕育苗作業は順調に進んでいます。ハウスめぐりが終わった苗箱は、職員が天候を見ながら温度と水をしっかり管理します。



ハウス側面の窓を
開けて換気します



スプリンクラーで
散水しています

★ 稲苗には高温や水不足は大敵で、必要以上に高温や水不足が続くと★**苗焼け**の原因となります。そうならないようにするために、温度と水の管理が大切です。

稲苗が快適な環境で生育できるように、日中のハウス内温度を**20℃～25℃**に保つようにハウスの窓を開閉し、換気をして温度調節をします。**30℃**を超えると**苗焼け**する可能性があります。

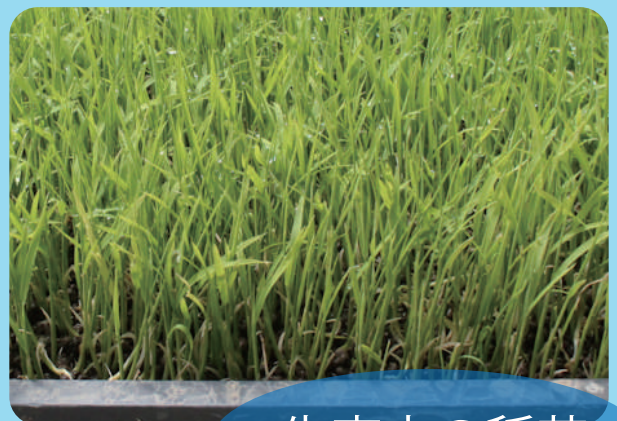
また、ハウス内が**5℃以下**になると、低温で稲苗の成長の妨げになるため、夜間の管理も必要です。

★ ハウス内の温度管理と同じく水の管理も大変重要です。水不足になると、苗の葉が針のようになってしまいます。

また、水をやり過ぎると苗が★**徒長**して倒伏の原因となります。基本的に1日2回、朝と昼にハウス内のスプリンクラーを作動して水やりをしています。

このように、天候や気温の変化に合わせて育苗に適した温度や水の調整をし、生産者の皆さまに稲苗をお渡しするまで大切に育苗しています。

スプリンクラー



生育中の稲苗

★**苗焼け**とは・・・

葉が部分的に白くなったり、枯れること。
育苗ハウス内の温度が高くなりすぎると発生する。

★**徒長**とは・・・

植物が間延びした状態に育ってしまうこと。
ヒョロヒョロと細長く、普通の苗よりも虚弱で枯れやすい。